

The opening special

# 巻頭特集

町から今お伝えしたいことを特集します。

# 祝 広報うみ 500号

## 広報うみからみる宇美町 Part1

昭和47年1月に第1号が発行された広報うみが、今回で500号を迎えました。今月から3か月にわたり、広報うみ500号突破の記念特集として、広報うみからみる宇美町をお届けします。広報ならではの小ネタから写真まで、町誌では見られない情報もご紹介します。今月は、第1号～第115号(昭和56年5月発行)です。



**No.30** 昭和49年6月発行  
ごみの処理について  
愉快なイラストで紹介  
当時のごみ処理について、愉快なイラストで紹介されています。時代を感じるイラストです。

**No.50** 昭和51年1月発行  
宇美町全景

第50号の表紙は、宇美町の全景です。当時の宇美町の人口は、19,339人、世帯数は、5,644戸でした。



**No.66** 昭和52年4月発行  
住民福祉センター完成

町民の方々の強い要望により、昭和51年8月に着工された住民福祉センターの工事が終了し、第66号広報に掲載されました。



**No.70** 昭和52年8月発行  
人口2万人目のうぶ声

昭和52年6月27日に、人口が2万人を突破しました。



**No.84** 昭和53年10月発行  
青年団による連載  
「青い瓦版」スタート

当時の青年団は、障子岳、早見など6つの支部に分かれていました。演芸会や盆踊り等、当時各地区で開催されていた行事に参加する様子や、研修旅行など、青年団の活動について紹介されています。この連載は、平成8年まで続きました。



**No.91** 昭和54年5月発行  
小柳ルミ子  
チャリティショー開催

昭和54年3月18日に宇美町商工会青年部主催で、小柳ルミ子さんのチャリティショーが行われました。開場前から長蛇の列が続き、押すな押すな盛況だったようです。この時の利益は、約36万円にのぼり、宇美町社会福祉協議会へ寄付されました。



**No.115** 昭和56年5月発行  
原田小学校開校

昭和56年原田小学校が開校し、入学式が行われました。当時の超近代設備を備えた調理室や、スタジオも完備した放送室など、最先端の小学校でした。



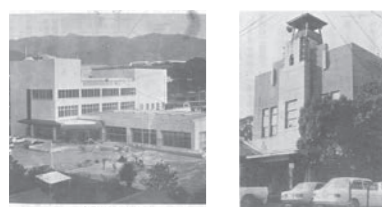
原田小学校の開校は、広報うみでも大きく取り上げられました

**No.1** 昭和47年1月発行  
記念すべき第1号

それまでは、年4回の発行であった広報うみを、毎月1回の発行としてスタートしたのが、昭和47年1月発行の広報うみ第1号です。この時の広報は、B5サイズの横向きで、白黒印刷で作られています。第1号では当時の町長の安川辰雄氏の年頭あいさつが表紙を飾り、町道大名坂く佐合線の舗装工事が完成という記事が掲載されています。また、人口は19,196人と書かれています。

**No.47** 昭和50年10月発行  
旧庁舎から  
新庁舎へ

昭和50年10月13日から、現在の宇美町役場の庁舎で業務が開始されました。それまでの役場は、現在の歴史民俗資料館の場所がありました。



新庁舎の写真 (現在の宇美町役場)  
旧庁舎の写真 (昭和50年1月発行第38号)

**No.48** 昭和50年11月発行  
町章決定!

現在も使用されている町章は、昭和50年11月号の広報うみで正式決定と発表されました。この町章は、滋賀県の商業デザイナー奥村よねぞう氏の作品で、「ウ」と「ミ」を組み合わせて、全体を鳥のツバサに見たてて産業と自然の調和をはかりながら、市民の団結と友愛を表し、美しい緑の自然に囲まれ、福祉都市として躍進する宇美町を象徴したものです。

